

三石上家唐田を領して大梵寺の城代ハ下
對馬 二万石 後ヨ新関因幡七石元和八年城
渡し言ハ因幡唐田之と云く元和八年壬戌夏
言上家唐田の事論あり 秀忠公の台聽
よ達し七十万石を与へし一百万石までには
へ移さる 奥州中村城之相馬大膳亮友成諱ハ
公義の命を蒙りし唐田ハ下向城代新関
因幡より因幡を更へ

一當城主

元和八年戌八月酒井宮内左衛門尉
諱ハ忠勝戒名達三大居士

跡ヨ是酒田二城のこよ令とれ十三万八千
石砂洋帆寛永九年壬申六月加後肥後守成
罪ありて唐田ハ配とれ酒井家ハ因幡の尉
二千石砂加増初令十口万石となる官内左衛
門より當左衛門尉敏と諱ハ又代清和源氏
なり家敏旭酸草裏敏澤源傳説云貞純親
王後胤潤川親氏任三州生恭親兄弟恭親
継家督一子以酒井為稱号代く為家臣子
孫蕃衍後分る家臣一流左衛門尉一流雅
樂外おれ執政及佐太郎軍流業云く親氏